

情報連絡一覧票

(石川県中央会・平成17年6月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	醤油の5月度出荷量は、前月比かなりの減少だったが、前年同月比ではやや増加した。
	パン・菓子製造業	6月中頃から下旬まで氷室万頭で大変忙しかった。6月の売上高は増加したが、菓子業界には、景気回復の兆しが余り感じ取れない。
繊維・同製品	その他の織物業	業界の二極化がさらに進行している。深刻な事態の中、様々な改革等を模索している企業も多い。
	織物業	絹分野では平成17年1月1日より原材料の生糸の規制が残されたまま絹織物の輸入が自由化され海外激安製品の圧迫が更に強まり多品種、極少ロットの発注に終始し、これまで幾多の困難にも増して厳しい状況で推移している。合繊分野ではデザイン性のあるインテリア、極細分織織物など差別化織物で好調なものも点在し、特にインテリアカーテン分野では検査基準が厳しく、品質面でも海外製品と競合しないため比較的安定した注文が見られるが、強い低コスト要請や開発費の圧迫により採算性は厳しい。以上の点から必要な設備投資までの利益確保は難しく、新商品開発に伴う設備改良が精一杯で、新設備投資計画は極僅かなものになっている。
	ねん糸製造業	今年に入って稼働率は大変落ち込んできている。1~3月に入り、若干稼働率が向上し期待感があったがそれも裏切られ、4~6月へずれ込んだ。また、稼働率は全く向上せず採算割れの加工賃並びに小ロット化が一層厳格になってきた。7月に入り、一部中東向市場の受注が出てきたようだが、無燃糸もので全く好転する傾向は一切見当たらない。また、一部で報道された金沢産元商社の不信により我々燃糸業の取引先が多く今後の動向に注視したい。
	ニット生地製造業	経編は昨年対比より上向き。丸編は昨年対比より不冴えで明暗が分かれている。
	その他の織物業	6月度は、昨年同月に比べ20%の売上減となった。平成17年に入ってから、売上減少が続いているが、当面この厳しい状況が継続すると考えられる。
	製材業、木製品製造業	档材の需要が少なくなっている。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	6月度は、プレカットで前年比16%減と落ち込みが目立って来ている。要因は需要そのものの減少と、富山県勢の攻勢によるものと思われる。この先販売価格の下落が心配される。
窯業・土石製品	砕石製造業	6月の組合取扱い出荷量は対前年同月比生コン向け9.4%、アスコン向け15.3%、全体量でも9.9%といずれも増加となった。4月~6月の第一四半期でも全体量で対前年同期と比較すると8.2%の増加となった。しかし、比較する前年同期が年間減少率の2倍を超えている期のため、依然厳しい状況にある。
	陶磁器・同関連製品製造業	停滞している需要の掘り起こしを図るべく、県内外の市町村、各団体へ新カタログを含め、発送を進めている。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、17年6月末現在、前年同月比102.5%で、やや上向きの状況である。6月の地区状況は、金沢地区及び南加賀地区でプラスとなったが、その他の地区はマイナスとなった。官公需及び民需で見ると、官公需は、金沢地区及び七尾地区で増会したものの前年同月比97.6%と落ち込んでいいる。一方、民需は、金沢地区及び加賀地区で大きく伸びて111.5%となった。県全体を4月~6月までの累計で見れば、金沢地区は好調に推移しているが、その他の地区はかなり厳しい状況で推移している。
	粘土かわら製造業	新築は減少したが、天候が良かったため葺替え工事が多く出来た。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	工作機械業界が活況である為、生産が追いつかず工場増設の企業が14社中2社がある。協力工場へも増産依頼が強く出されている。
	非鉄金属・同合金圧延業	前月と同様、特に変化は認められない。
	鉄素形材製造業	ここ2~3ヶ月は、昨年度をやや上回る生産量であり、業況は、企業格差はあるものの、安定状況にある。一方、受注引き合いは活発化してきているものの、県内業界にマッチングするものは少なく、商談成立は厳しい状況である。
	鉄素形材製造業	組合員企業の現況は前月同様で特記すべき事項は生じていない。

情報連絡一覧票

(石川県中央会・平成17年6月分)

	機械器具の生産	仕入れ材料が高価で推移しているが、一応安定してきた。従業員不足が生産性向上の足かせになっている。
一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	1.材料費の増加に伴い、受注価格への上乗せ期待感があるが、親会社には内外受注競争激化のため応じてもらえないのが実情である。2.景気は全般的に上向きである。3.鉄工機電協会の4～6月期のD1調査結果を見ても、調査項目、全項目が前期比より好転していることを見ても、状況が好転している事が伺い知れる。
	繊維機械製造業	当組合の主要得意先の状況は次の通り。繊維機械は昨年は年央の今頃から急速に悪化して秋以降ずっと低迷状態が続いてきたが、今年は今から良くなると期待を持てる状況になっている。工作用機器は自動車産業の専用機ライン向けに好調が続いており、ユーザーの要求に応える製品の開発により前年比20%以上の計画を立てている。
	プレス、工作機械	・受注量は引き続き増加の上、昨年よりさらに短納期での依頼も増加。・人手不足により中国からの作業員の調達が始まった。
	機械金属、機械器具の製造	中国向け繊維機械が回復し、売上増になった。建設機械や工作機械は相変わらず好調を維持している。増産対応への設備投資も意欲的であるが、長納期化に苦慮している。原油価格の高騰、中国の繊維製品輸出規制等が、今後どの様に影響してくるか注視したい。
その他の製造業	漆器製造業	5～6月のギフトシーズン受注は、例年より早めに終了しカタログ販売も大幅に減少している。毎年6月に催される各種展示会商戦においても大きな盛り上がりは無く、各社とも個別得意先向けに営業活動に入っているが、夏場は業界の閑散期でもあり大きな動きは見られない。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	売上はやや減少。理由は季節の要因ではないかとの見方。正絹、合織、洋装、和装、インテリア全て販売に陰りが見られる。資金需要がないと言いつつも、取引条件の悪化から回収状態がスムーズではないと聞く。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高の減少が続いている。流通形態の変化が激しい中、消費者の魚離れが進んできているようです。子供に対する魚食普及に力を入れていく必要があると思います。今、業界あげてこの対策に知恵をしばっていくことにしています。
	一般機械器具卸売業	4、5と前年割れの状態が6月では何とか数字を確保したようです。しかしながら前月をカバーする様なことは出来ませんでした。特にエアコンの出足があまりよくありません。一週間ほど暑い日が続けば活気は出るのですが、今ひとつ良くありません。住宅着工が少し増えたようですが、まだまだ本調子ではありません。7月の気温が高ければ取り返すことが出来ますが、天気次第です。夏場商戦のエアコンも価格が量販店指導型なので苦戦です。
小売業	燃料小売業	・仕切り価格は若干下落したが、安値・量販店のセルフスタンドを中心にそれ以上に小売価格は軟化した。・採算割れと思われる価格が出現し一旦は沈静化したのが局地的に安値が散見される。
	機械器具小売業	平成17年4～5月度累計地域店最終伸びは111%であった。個展や合展の5月前倒し開催により、デジタルAV関連機器が好調に売れた結果であったが、6月に入り、液晶・PDPテレビの大幅値下がりにより、台数は伸びたが売上金額ダウンの最悪の状況を招いている。また、価格規模見の買い控えも出てきており、今後の売上が憂慮される。冷蔵庫・RAも台数伸びが前年を下回り、6月売上金額伸びは90%台に落ち込んだ。
	野菜・果実小売業	TVコマーシャルの影響で加賀野菜「太胡瓜」の県外からの引き合いが多くなった。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	中旬まで空梅雨の影響で婦人カットソー、肌着関係など夏物商品の販売は順調であった。クール・ビズ体系は商品手当てが遅れて次年度より期待している(前年度比105.5%)。
	鮮魚小売業	今迄に無い販売不振が続く。中央卸売市場(卸、仲卸、買等)揚げて魚食普及、市場(業界)の活性化に向け方策に取り組む。水産に限らず青果も同様(売上落ち込み)と聞く。
	他に分類されない その他の小売業	百万石パレードも雨天でキャンセルもあった。学会等のコンベンションも少なく、今は我慢の時である。
	百貨店・総合スーパー	6月の売上は、予算比90%、前年比104.3%と前年を上回った。毎年6月はこれといったイベントを行わない。日々では18日間で前年を上回った。業種別前年比として、ファッション91.9%、服飾121.9%、生活雑貨96.8%、食品97.9%、飲食92.3%、サービス104%という結果であった。店舗別でも半分強が前年をクリアした。生活に必要な衣類雑貨関係が多少良かった感がある。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成17年6月分)

非 製 造 業	米穀類小売業	米価格は実勢相場が上昇する上、端境期の供給に不足感が高まっている。コシヒカリが各産地で上昇している。当県でも60キロ当たり前回16,369円で今回564円の値上げとなり、全国加重平均した指標価格は16,141円、前回より773円(5%)の上昇となった。当然ながら原料玄米の値上げで、精米価格に跳ね返ってくる。10キロ100円程度だが、消費者の安値志向が強く、値上げは出来ないようである。厳しい状況である。	
	商店街	近江町市場	6月中の天候は晴れの日が多く、人出は平年より多かった。売上についても前年同月比と不変。
		尾張町	空梅雨の様相をしていたかと思うと、一転して大雨。最近の異常気象を地で行く6月だったが、イベントがそろそろ華やかとなり、おかげで町中への人通りも増えてきている感じた。売上が落ち込むこともなく、天候の気まぐれさえ気にしなければ、順当な月であったようだ。
	サービス業	旅館、ホテル	各施設においては昨年の同月の週末は横ばい状態であるが、平日はやや落ち込んでいるような状況であり、やはり好転に向かっていない。7月後半から夏休みシーズンを迎え、愛知万国博への流れは相当大きいと思われる。
		旅館、ホテル	一部の業種で、景況感の良さを聞くが、先行き不安もあるのか、なかなか高額のレジャー産業にまでは波及する様子が見えない。全国内においても、国内観光は厳しい状況に変わりはない。
		自動車整備業	継続検査実績車両数は、前年同月比1.1%増、前月比9.4%増。新規検査状況は前年同月比6.7%増、前月比17.5%増で推移している。
		旅館、ホテル	日本経済の低迷、国内旅行人口の減少、愛知万国博の影響等によって観光業界は極めて厳しい状況が続いている。総体的には個人客は増加傾向にあるものの、宿泊客、日帰り客、売上ともに減少の結果となり、全体的には消費額の低迷、営業コストの増大など極めて厳しい状況にある。こうした現状から、温泉地全体、そして旅館それぞれが新たな方向性を見出し、社会の諸情勢に揺らぐことの無い強い体質の温泉観光地を目指し、「山中温泉ブランド」を創り上げ、他の温泉地との差別化を計る。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は前年同月比の22.6%の減となった。内訳としては、民間土木は28.4%の減、民間建築は32.2%の減となり民間としては31.4%の減となった。公共土木は2.4%の減、公共建築は16%の減となり、公共としては5%の減となった。
		鉄骨・鉄筋工事業	稼働率80%、地域並びに企業でバラつきがある。以前指値で低い単価である。
		板金・金物工事業	1.仕事量のバランスが崩れている(住宅メーカーの下請は仕事量が多い)。2.材料の出荷量が減少している。3.施工単価が低迷している。4.リフォーム関係の仕事が増加する一方、大型物件の発注が減少。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	軽油価格が前月比1円程度値下げとなったが、7月には3円程度の再値上げが予想される。「企業努力もう限界」と荷主に窮状を訴えても90%以上が運賃に転嫁出来ない状況。運送業界の要望により5府省で連絡会議が設置され原油高騰が産業に与える影響を把握し、産業ごとに対応を図る事となった。
		一般乗用旅客自動車運送業	厚生労働省が行う毎年6月の賃金、労働時間の調査結果を見ると、タクシードライバーの年収は8年連続でダウンし、年収(2004年)が308万円にまで低下し、更に本年は300万円を割る(全国平均)可能性がある。石川県をはじめ全国33道府県では既に200万円台で推移しており、石川県では約258万円と発表された。従ってタクシードライバーの働く環境や状況も劣悪化が進んでいるという事により、苦情の増加(繁華街での交通問題を含む。)が目立ち、一方では交通取締りの強化につながり、駐停車違反が倍増している。ビジネスモデルの構築、安全輸送サービスの向上に目を向ける余裕が強く望まれている。
一般貨物自動車運送業		6月の売上は例年に比しやや減少、収益は大幅に悪化している。原因は経費率の増加で、燃料の高騰が主因。高速道路料金の引き下げも霞んでしまった。	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
運輸業	一般貨物自動車運送業	原油の値上がりに対し政府備蓄の一部取り崩しや、軽油引取税の上乗せ暫定税率7円80銭の撤廃を要望する。
繊維・同製品	ねん糸製造業	エネルギーコストは今後上昇する一方であり、電力会社のデマンド方式による基本料金設定等は著しく公平性を欠くものであり、産業界全体で見直しを含めた価格修正を論じて止まない。研究会等を通じ対応策を検討したい。
サービス業	旅館、ホテル	事業変化のための支援補助事業。